

# 平成28年 橋梁会現場見学会 報告書

高知県橋梁会理事 西川 準二

## 1. はじめに

高知県橋梁会では、日帰りと1泊2日を年ごとに交代で現場見学会を行っている。昨年度は10月下旬に予定したが参加人数が所定に達しなかったため中止となったが、今年は18名の参加のもと7月8日~9日の1泊2日で開催された。

旅程は、1日目に兵庫県の北近畿自動車道 八鹿日高道路青山橋上下部工事を見学した後、コウノトリの郷および播磨屋米菓店の工場見学をして城崎温泉に宿泊した。2日目は余部橋梁を見学した後、鳥取砂丘・砂の美術館を見学し、途中道の駅ポート赤碕を經由して帰路についた。

## 2. 北近畿自動車道

### 八鹿日高道路青山橋上下部工事 見学

北近畿自動車道は但馬と丹波地域を結び、京阪神ともつながる全延長70kmの高規格幹線道路である。その中で兵庫県養父市八鹿町の宿南で施工されている橋長262mの青山高架橋「PC4径間連続ラーメン箱桁橋」上下部工の施工状況を見学した。この橋はA1橋台、P1,P2橋脚、上部工177mを西松建設(株)、A2橋台、P3橋脚、上部工85mを(株)ピーエス三菱が施工している。



現場説明の状況

事前に国交省豊岡河川国道事務所の田尻建設専門官と道の駅「ようか但馬蔵」で待ち合わせをして、現場まで案内をしていただいた。

現場では田尻建設専門官の挨拶の後、各工事の所長より現場説明があり、それぞれ9名の2班に分かれてP1とP3橋脚に設置されているエレベーターに乗って約40m上空のPC箱桁橋の上部で案内を受けた。



工事状況を分かり易く示した図面と写真

ワーゲンによる主桁の張出し架設の方法や施工サイクル、コンクリート打設方法、PCケーブルの緊張方法、下部工の型式、残りの施工順序等をわかりやすく説明して頂いた。



西松建設(株)側の現場見学状況



㈱ピーエス三菱側の現場見学状況

また、通常ではなかなか見ることが出来ない箱桁橋の中まで見学させて頂き、中頭部の開口部や維持管理用の外ケーブルの設置位置等がよく分かった。



ワーゲン下側の箱桁内部（ゲビンでワーゲンの反力を取り、ゲビンで型枠支保工を吊っている：手前コンクリートの孔が外ケーブルの通る孔）



箱桁橋の中（P3 橋脚部付近：上の小さな孔が外ケーブルの通る孔）



A1 橋台（沓は設置完了、手前は側径間の支保工、奥はトンネル）



P3 橋脚のエレベーター（橋脚施工の土留は竹割り型で施工されている：橋脚は鋼管コンクリート複合型式 → コンクリートの中は鋼管が配置され、外周鉄筋の帯鉄筋はPC 鋼より線を使用している）



現場をバックに集合写真

小雨まじりの蒸し暑い中であつたが、PC 上部・下部工事の細部を見学しながら、また各自各々の質問にも回答していただき大変有意義な現場見学となった。



### 3. コウノトリの郷と米菓店の工場見学

現場見学終了後、現場から 15 分程バスで走り播磨屋米菓店の工場見学に向かった。時間が 15 時を過ぎていたこともあり工場のベルトコンベアの稼働は少なかったが、広々とした工場であった。皆で試食をして土産を買っていた。



播磨屋米菓店の工場内

続いて一同はコウノトリの郷に向かった。コウノトリは 1986 年に絶滅したが、この豊岡地区で 1992 年から繁殖したコウノトリの野生復帰計画が開始され、現在この郷から飛び立ったコウノトリは 100 匹程度まで増え、鹿児島県や北海道等で生息の確認がされているとのことであった。コウノトリはサギに似ているが、サギより一回り大きく、成鳥になると鳴かなくなり、羽の先端が黒の特徴がある。



コウノトリの郷の内部

### 4. 城崎温泉

城崎温泉は、兵庫県豊岡市城崎町にある温泉で、コウノトリが傷を癒していた事により発見との伝説があり平安時代から知られている温泉で 1,300 年の歴史がある。宿泊する西村屋ホテル招月庭は、創業 150 年の老舗旅館で 5 万坪の大庭園や露天風呂等 4 つのお風呂が好評であった。

18 時 30 分から宴会がはじまり、山陰ならではの料理に舌鼓しながら現場見学の感想等を歓談し会員同士の親交を深めた。



懇親を深める会員同士



二次会の様子



ホテル前で集合写真



## 5. 余部橋梁

翌朝、城崎温泉を出発し余部橋梁に向かった。余部橋梁は平成 19 年 7 月の現場見学会で訪れた場所で当時は旧橋を取り壊す前であり、明治 45 年に出来た鉄橋であった。新橋は平成 19 年 3 月に着工し平成 22 年 8 月に完成したエクストラード 5 径間連続 PC 箱桁橋で総工費は 30 億円とのことである。ちなみに旧橋は 33 万円とのことで時代の流れを感じた。



起点側が S 字になっているのは旧橋と新橋で  
7m 架設位置が違うため



平成 19 年 7 月の集合写真



平成 28 年 7 月の集合写真

## 6. 鳥取砂丘と砂の美術館

余部橋梁を後にして次の目的地鳥取砂丘を目指した。鳥取砂丘の前には平成 18 年に開館した「砂の美術館」がある。毎年テーマを変えて展示を行い、今年ハリオでオリンピックが開催されることから南米がテーマであった。毎年海外から砂の彫刻家が集まり力作を披露している。



美術館の内部



砂と水だけでできているとは驚きである





鳥取砂丘前で記念撮影



昼食は鳥取砂丘のレストラン

## 7. 道の駅「ポート赤碕」

鳥取砂丘を出発し高知へ向かった。その途中で道の駅「ポート赤碕」に立ち寄った。ここでは赤碕港で獲れた新鮮な海産物を売っており、また岩牡蠣をその場で捌いて食べさせてくれるコーナーがあり、数名が大きな岩牡蠣に舌鼓を楽しんだ。



大きな岩牡蠣

## 8. 車中研修

高知から昼食をとる「道の駅 ようか但馬蔵」までのバスの所用時間は4時間あった。大和ハウス工業の樋口武男会長の講演録を聞きながら行った。

道の駅ポート赤碕からの帰りは、無一文から太平洋セメント、JFE エンジニアリング、サッポロビール等多数の会社を設立し、一代で財閥を築いた事業の鬼「浅野総一郎」の生涯を描いた映画「九転十起の男」を鑑賞しながら帰った。



バスの状況

## 9. あとがき

今回の現場見学会は、初日に少しだけ小雨が降ったがその他は天候にも恵まれ、予定通りの見学ができた。現場見学では、豊岡河川国道事務所、ピーエス三菱、西松建設の皆様にご大変お世話になり、改めて心より感謝申し上げます。

熱中症の心配もしたが、参加者全員が無事過ごせたのが何よりであった。現場見学では参加者の技術向上に役立ち、その他見学した箇所も初めて訪れたという会員が多く、有意義な見学会であった。見学会の段取りに携わった理事および多数の会員の参加に感謝を申し上げます。